

令和元年6月25日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K03015

研究課題名(和文) 琉球列島におけるサンゴ礁の漁撈活動と民俗分類をめぐる生態地理学的研究

研究課題名(英文) A Bio-Morphological Study on Traditional Coral Reef Fishery

研究代表者

渡久地 健 (TOGUCHI, Ken)

琉球大学・国際地域創造学部・准教授

研究者番号：30543764

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：複雑な地形と生物多様性として特徴づけられるサンゴ礁で漁をする漁師は、漁場の地形を細かく呼び分けてきた。しかし、これまで、サンゴ礁微地形の呼び分け(民俗分類)と漁撈活動の具体的な関係はほとんど解明されていなかった。本研究は、琉球列島のいくつかの地域において、サンゴ礁微地形をめぐる民俗分類と漁撈の関係性の解明に努めてきた。特に、「カタマ」と呼ばれる、礁縁部に位置しサンゴ礁に覆われた凹地では、「地形 底質 生物 漁撈」の有機的な関係を明らかにし、漁場の生物多様性を支える微地形と礫質環境の重要性を指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本におけるサンゴ礁微地形に関する民俗分類の研究は、およそ40年の歴史がある。しかも、世界的に見ても研究の数が多く、内容も詳細である。しかしながら、民俗分類と漁撈活動の有機的關係については等閑視されてきた。本研究は、サンゴ礁漁場において、漁師たちが識別し独自の呼び名を与えてきた微地形に注目し、その漁撈活動における価値づけを、地理学・生物学・人類学の共同研究によって考察した。特にカタマと呼ばれる礁縁部の凹地の調査から、サンゴ礁生態系における礫質環境の重要性を指摘し、サンゴや藻場の保全に主眼を置いた従来の保全策を総体的に捉え直す必要性について提言した。

研究成果の概要(英文)： Fishermen who catch fishes in the coral reefs classify reef morphology in detail and give vernacular terms. Many studies on folk terminology of coral reef morphology has been carried out, but their organic linkage to fishing activities has not. We studied the linkage in several islands in the Ryukyus.

In this study, for example, we examined the organic linkage among the morphology, deposits, organisms and fishing activities in depressions called 'katama' by fishermen. We observed that katama was circular in a plan view, and the floor was covered with numerous flat boulders. There were small organisms under the gravels. According to our interview with fishermen, fishes turn the gravels and feed these kinds of small organisms. It shows that fishermen have recognized katama as important fishing grounds with their traditional ecological knowledge.

研究分野：地理学

キーワード：サンゴ礁 微地形 海洋生物 漁撈活動 底質

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

奄美・沖縄の島々はサンゴ礁によって縁どられている。人とサンゴ礁のかかわりは古くから連続と続いてきたが、近年、漁業の近代化により、サンゴ礁における伝統的な漁撈活動(網漁など)は失われつつある。奄美・沖縄で人とサンゴ礁に関する研究が活発になるのは40年前で、以来多くの研究が蓄積された。しかしながら、民俗分類(漁師たちによるサンゴ礁微地形の呼び分け)と漁撈活動の具体的な関係についてはほとんど明らかにされてこなかった。民俗分類を手掛かりにして、サンゴ礁の「地形・生物・漁撈」の関係、ならびにその関係を支えてきた漁場知識の内実を明らかにする作業は喫緊の課題である。その作業は、単独の学問分野では難しく、地理学・生物学・人類学の共同研究が不可欠である。

2. 研究の目的

サンゴ礁域では、「複雑な地形(生息環境) 多種の生物 多岐に分化した漁撈活動」という関係がみられる。これまでに、サンゴ礁微地形の民俗分類に関する知見には多くの蓄積があるものの、その民俗分類を実際の漁撈活動やサンゴ礁生態系機能(生物学的・生態学的機能)の視点から論じた研究はほとんど行なわれていない。本研究は、漁師によって分類され独自の呼び名(方名)を与えられた微地形を取り上げ、地形・底質調査、生物・マイクロハビタート(微小生息場所)の調査、漁撈調査を実施することで(1)漁民たちのサンゴ礁環境認識の体系と、それを支える生物・地形的背景、漁撈の機能的・文化的側面を明らかにすること(2)同時に、それらの地域的な差異と特性を明らかにし、その要因を考察することを目的とした。

3. 研究の方法

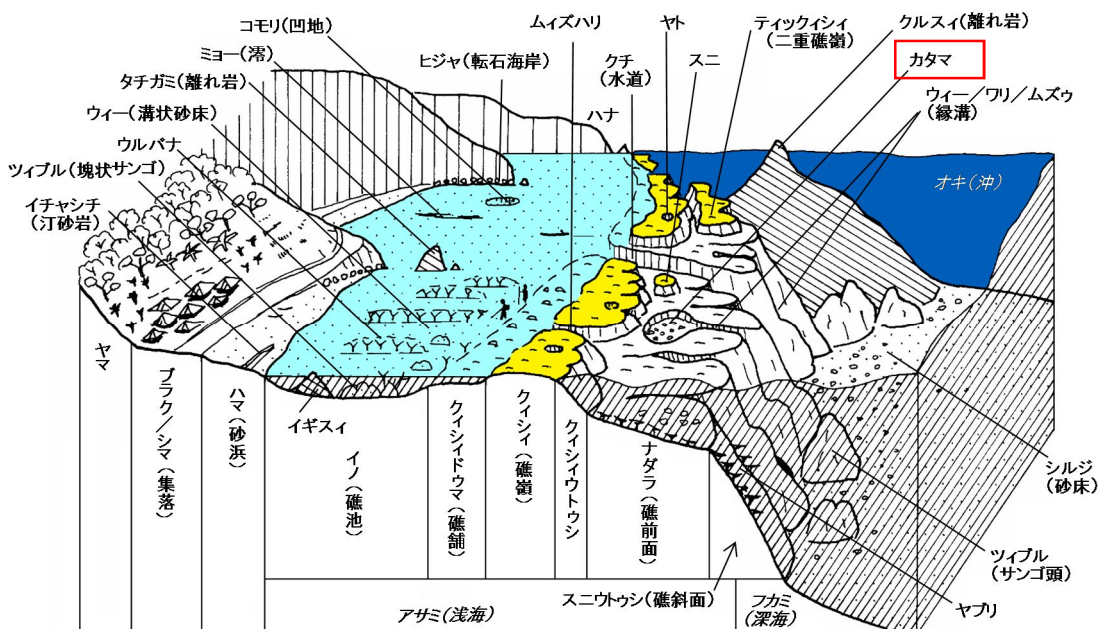
研究方法は、(1)野外調査と(2)文献調査に分けられる。

(1)野外調査は、潜水による地形・底質・生物調査、ドローンを用いたサンゴ礁の空撮、漁師への漁撈活動のインタビュー調査などである。(2)文献調査は、おもに市町村誌や字誌に記載されたサンゴ礁漁撈の記述を整理する作業である。

4. 研究成果

成果の一部は研究代表者の著書『サンゴ礁の人文地理学』の中にまとめたが、(1)中琉球に広く分布する「カタマ」「ハタマ」などと呼ばれ礁縁部にある凹地(下図)を中心に、「地形・底質・生物・漁撈」の関係性を生物地形学的観点から明らかにしたことが最大に成果である。(2)また、サンゴ礁地形の民俗分類やサンゴ礁地名の分析から、漁撈活動における微地形のもつ意味の重要性を明らかにした(高橋2018; 渡久地2019)。(3)本研究ならびに文献調査から、奄美・沖縄におけるサンゴ礁微地形にかかわる民俗語彙は約400語にのぼり、その中には、漁撈活動と深く関わっている語彙が少なくないことが明らかになった(渡久地2017)。(4)研究の過程で、甲殻類を中心に、サンゴ礁地域の生物に関して新知見を得た(藤田ほか2018; 藤田ほか2019)。また、サンゴ礁の保全の在り方についても提言を行うことができた(長谷川2019; 渡久地ほか2016)。

本研究は、交付申請書に記載した「研究の目的」をある程度達成でき、一部は新たな研究(自然保護助成基金助成研究)に引き継がれることになった。



奄美大島・大和村サンゴ礁地形の民俗分類(渡久地ほか2016)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

- 渡久地 健, サンゴ礁漁場の多様性とその価値, 地理, 査読なし, 64 巻 2 号, 2019, 24-31
- 長谷川 均, 地理学の視点から見たサンゴ礁海岸の開発と保全, 地理, 査読なし, 64 巻 2 号, 2019, 32-39
- 藤田喜久・渡久地 健, 伊是名島からのヤシガニの記録, *Fauna Ryukyuna*, 査読あり, 34 号, 2017, 9-10
http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/bitstream/20.500.12000/38794/1/FR34-3_Fujita_Togushi.pdf
- 渡久地健・藤田喜久・中井達郎・長谷川均・高橋そよ, 礁前面の凹地「カタマ」の生物地形的評価, 沖縄地理, 査読あり, 16 号, 2016, 1-18
<http://okinawa-repo.lib.u-ryukyu.ac.jp/handle/20.500.12001/21611>

〔学会発表〕(計7件)

- 長谷川均, 地理学の視点から見たサンゴ礁海岸の開発と保全, 日本地理学会 2018 年度秋季大会(公開シンポジウム「サンゴ礁保全の現在とこれから」), 2018
- 渡久地健, 漁師のサンゴ礁空間認識, 日本地理学会 2018 年度秋季大会(「公開シンポジウム「サンゴ礁保全の現在とこれから」」), 2018
- 渡久地健, サンゴ礁漁撈を支える生態的知識, 第 27 回日本熱帯生態学会年次大会(公開シンポジウム「奄美・沖縄のヒトと自然の歴史」), 2017

〔図書〕(計4件)

- 高橋そよ, コモンズ, 素潜り漁師の社会誌, 2018, 276
- 渡久地健, 古今書院, サンゴ礁の人文地理学, 2017, 362

* 分担執筆は省略

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名: 長谷川 均
ローマ字氏名: HSSEGAWA, hitoshi
所属研究機関名: 国土館大学
部局名: 人文学部
職名: 教授
研究者番号(8桁): 80208496

研究分担者氏名: 藤田 喜久
ローマ字氏名: FUJITA, yoshihisa
所属研究機関名: 沖縄県立芸術大学
部局名: 全学教育センター
職名: 准教授
研究者番号(8桁): 20771463

(2)研究協力者

研究協力者氏名: 高橋 そよ
ローマ字氏名: TAKAHASHI, soyo

研究協力者氏名: 中井 達郎
ローマ字氏名: NAKAI, tatsuro

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。